

船井情報科学振興財団奨学生レポート

2017年12月

勝谷郁也

研究・学業

この半年は今年の初めから取り組んでいた、カーボンナノチューブの配光薄膜の実験を形にするために尽力しました。おおよそ終わりそうで、今年中の投稿をします。この配光薄膜関連の実験で、サバティカルで来ていた首都大の柳和宏先生との実験も形になりました。この3カ月に新たにナノチューブで面白いことも見えてきたので、来年以降も関わって行けたらと思っています。

この学期は2つの授業を取っていましたが、こちらでの授業には流石に慣れて、あまり時間を割け過ぎず、効率的に学期を過ごせました。共同研究をしている先生の授業を取り、研究に役立てられそうです。学期末プレゼンもうまく発表ができ、日本で苦手だったプレゼンも克服できているのではと思います。

その他

私生活ではいろいろとトラブル続きでした。日本でも大きく取り上げられたようですが、9月には超大型ハリケーンがヒューストンを襲い、大きな被害を出しました。ダウンタウンやバイユーの付近ではニュースで取り上げられたように浸水しました。幸いにも私の住居は少し土地が高く、車も含め無事でした。2週間近く大学は閉鎖し、そのうち10日間は外に出ることができませんでしたが、ハリケーン襲来前に食料品を買っていたため、なんとか過ごすことができました。

車関係や医療保険のトラブルもあり、このような問題は留学生であまり知識がないのと、電話での対応も慣れていないので、様々な対応に手間取りました。

大変遅くなりましたが、ようやく1本目の論文が形になりそうです。来年はナノチューブ関連でももう1本と、メインの超高磁場分光の方で複数の論文を書き、あと1年半での卒業を目指していきたいと思います。